

チャバネアオカメムシ越冬調査（平成12年冬期）

1 調査の目的

果樹を加害するカメムシ類は果樹園外から飛来し、また年次や場所によって発生時期や発生量の変動が大きく突発的に発生する。このため、病害虫防除所ではチャバネアオカメムシの越冬調査を行い発生予察の基礎資料としている。

2 調査方法（ふるい法）

チャバネアオカメムシは、主として落葉の下で成虫で越冬するが、体色が周りの落葉とよく似た暗褐色に変化し、また動きが鈍く野外での発見は困難である。そのため、一定面積の落葉を集めて、ふるいにかけて、大型ポリ袋に入れ、25℃の定温条件下に置き、4～6日後に落葉から出てきたカメムシを調査した。なお、落葉を集める場所は、チャバネアオカメムシの越冬密度が高いと思われる南向き斜面のシイ・カシなどの常緑広葉樹林を選んだ。

3 調査期間 平成12年1、2月

県下16カ所（1地点1m×1m 3カ所 3m²調査）

4 調査結果

表1 県内各地点におけるチャバネアオカメムシの越冬数（単位：頭／3m²）

調査地点	12年	11年	10年	9年	8年	7年	6年	5年	4年
熊本市河内町野出	0	0	0	0	23	0	2	0	1
熊本市河内町温泉	2	1	0	0	4	0	1	1	3
三角町郡浦	1	1	0	0	0	0	0	0	1
三角町向山	0	0	0	0	4	0	1	0	0
不知火町大見	0	0	0	1	7	0	0	0	0
松橋町豊福（果研内）	0	0	1	0	4	0	0	0	1
豊野村安見	1	0	1	2	1	0	1	1	2
天水町赤仁田	3	0	1	0	1	0	0	0	1
山鹿市三玉（不動岩）	3	0	3	2	17	0	1	0	1
植木町木留	2	0	1	0	49	0	2	1	3
菊池市玉祥寺	0	0	0	0	1	0	3	0	1

甲佐町寒野	0	0	0	0	2	0	0	1	1
竜北町大野	2	0	1	0	1	0	1	0	5
田浦町太田	0	0	0	0	2	1	1	0	4
本渡市	2	0	1	0	0	0	0	0	1
苓北町内田	0	0	0	0	14	1	1	1	4
合 計 (頭)	16	2	9	5	130	2	14	5	29

5 考察

- (1) 平成12年冬期のチャバネアオカメムシの越冬数は表1のとおりで、平年値94頭（平成8年の値を除いた平成4～11年の平均）に比べ多かった。
- (2) 果樹カメムシ類による年度前半の幼果への被害は、当年の越冬数に比例する（表2）。本年のチャバネアオカメムシの越冬数は平年よりやや多いため、第2世代成虫が発生する7月下旬までのカンキツ、ナシ、カキ、モモ、スモモ等の幼果への被害は比較的多いと予想される。
- (3) 8月以降の新生成虫の発生は、餌となるスギ、ヒノキの毬果の状態に大きく左右される。本年のスギ・ヒノキの毬果数は、平年に比べ少ない予想であるため、新生成虫の発生は少ないことが予想されるが、台風の襲来等により多飛来することもある。
- (4) 果樹を加害するカメムシ類には、その他ツヤアオカメムシ、クサギカメムシなどがあるが、越冬調査はチャバネアオカメムシのみ行っているため、その他のカメムシについては、園周辺を見回るなどの注意が必要である。

6 参考資料

表2 チャバネアオカメムシの予察灯誘殺数（農産園芸研究所）

月－半旬	11年	10年	9年	8年	7年	6年	5年	4年
5－1	6	40	0	0		21	0	12
－2	1	9	6	0		19	6	1
－3	2	3	4	47		24	11	26
－4	1	0	4	190		5	5	18
－5	0	1	0	96		14	9	4
－6	0	0	3	88		6	8	4
6－1	8	1	1	610	1	3	1	80
－2	4	3	0	63	1	7	19	123
－3	8	21	2	198	0	11	16	65
－4	7	9	7	56	0	16	8	46
－5	1	27	3	139	1	13	5	14
－6	0	4	0	76	4	26	15	9
7－1	3	11	0	433	2	39	2	31
－2	1	10	2	179	1	40	8	69
－3	0	5	0	840	0	30	3	35
－4	0	21	0	564	0	33	1	47
－5	0	10	1	567	0	35	2	51
－6	0	33	0	533	0	31	2	28
合 計	42	208	33	4679	10	373	121	663